

フランス語における未来表現 —単純未来形と近接未来形—

星野 加奈子

(欧米第二課程 フランス語専攻)

キーワード：フランス語，未来，時の表現，文体

0. はじめに

標準フランス語¹で未来の事柄を表現するには、主に①～③の形式のいずれかが用いられる。

①動詞を未来形に活用させる(=単純未来形²)。

②「aller(行く)の活用形³+動詞の不定形」という形式を用いる(=近接未来形)。

③現在形を用いる。

未来表現におけるこれら3つの形式のうち、①単純未来形と②近接未来形を取り上げ、それらの機能の違いを明らかにすることが本稿の目的である。③現在形については、今回は取り扱わない。卒業論文本体では、漫画・小説・コーパスを用いて両形式の文体による出現頻度を調べた調査Ⅰと、フランス語母語話者に対するアンケートから両形式の使い分けを調べた調査Ⅱの二つの調査を行なったが、本稿では紙幅の都合上、調査Ⅰと調査Ⅱの一部のみを掲載する。本文中の例文番号、グロス、下線、フランス語で書かれた文献の引用文の訳は特に断りのない限り筆者によるものである。

1. 先行研究

1.1.と1.2.で単純未来形と近接未来形の差異を扱っている Franckel(1984)と Jeanjean(1988)の記述を確認し、単純未来形と近接未来形の本質的な違いを整理する。1.3.では南館(1998)の中で文体について触れられている部分を引用する。

1.1. Franckel (1984)

Franckel(1984)は単純未来形と近接未来形の機能的差異を取り扱った論文である。以下の表1にその主張をまとめる。

¹ 「パリを中心としたイル・ド・フランス地方で話されている方言をもとにして作られた標準語」を指す。(町田 1992: 84)

² 人称・数に応じてそれぞれ-rai / -ras / -ra(1-3 人称単数)、-rons / -rez / -ront(1-3 人称複数)という語尾を動詞語幹に付与する。

³ 直説法現在形の活用はそれぞれ vais / vas / va(1-3 人称単数)、allons / allez / vont (1-3 人称複数)。

表 1 : Franckel(1984)における単純未来と近接未来の差異

	単純未来	近接未来
[1] t_0 ⁴ との関係	断絶	隣接
[2] 事行の位置付け	t_i ⁵ で位置付け	t_0 で位置付け 直示的に未来を指す副詞で二次的な位置付けも可
[3] 一次的制約	事行・状態を t_0 につなぎとめる 傾向にあるすべての限定操作を 排除	t_0 に対する断絶をもたらすすべての 限定操作とは両立しえない

(Franckel (1984)をもとに筆者作成)

1. 2. Jeanjean(1988)

Jeanjean(1988)はフランス語の口語コーパス GARS(Groupe Aixois de Recherches en Syntaxe)のデータをもとに、単純未来形と近接未来形の特徴を考察している論文である。以下にその主張をまとめる。

表 2 : Jeanjean(1988)における単純未来と近接未来の差異

	単純未来	近接未来
[1] 基本的性質	内在的制限のない未来	前望的照準を表わす未来
[2] 用いられ やすい動詞	être (～である)や avoir (～を持っている)のような <u>状態相動詞</u>	vieillir(老いる)のような <u>前望的照準を表わす動詞</u> mourir(死ぬ)のような <u>自らの内に空間的・時間的な制限を持つ動詞</u>
[3] 時の表現	共起しやすい	共起しにくい

(Jeanjean(1988)をもとに筆者作成)

1. 3. 南館(1998)

南館(1998)では、文体について以下のように述べられている。

va ⁶は主観的で日常の会話や子供の話の中によく現れるのに対して、 ra ⁷は客観的かつ形式的で文学作品でも多用されると言われる。

(南館 1998: 31)

文体による使い分けの傾向はある程度観察されるようであるが、これ以上詳しくは触れ

⁴ 発話時のこと。

⁵ 未来時における任意の一点を指す。

⁶ 近接未来形のこと。

⁷ 単純未来形のこと。

られていない。

2. 調査

2.1. 調査 I

調査 I では、文体の違いによる単純未来形と近接未来形の出現数の差を調べるために、漫画・小説からは手作業で、コーパスからはいくつかの語と品詞を設定して両形式を抽出した。使用した資料は以下の通りである。近接未来形について、「aller の活用形+動詞の不定形」は「～しに行く」という意味を表わす場合もあるが、それらは訳文、または前後の文脈から判断し除外してある。

【漫画】 Arakawa, Hiromu(2013) *Silver Spoon - La cuillère d'argent - 1* (traduction: fabien Vautrin & Maiko_O). (邦題『銀の匙 Silver Spoon』総ページ数 192・漫画本編 180、以下 SS1)

【小説】 De Saint-Exupéry, Antoine(1943) *Le petit prince*. (総ページ数 96、以下 PP)⁸

【コーパス】 CbLLE POS Research Engine < Spoken French > (コーパスに基づく言語学教育拠点 品詞検索エンジン<話し言葉フランス語>、総語数 813,579 語⁹ 以下 POS)

コーパスでの用例収集の際、近接未来形に関しては「aller+動詞の不定形」という基本的な形に加え、「aller+人称代名詞+動詞の不定形」、「aller+否定語 pas(～ない)+動詞の不定形」、「aller+否定語 plus(もはや～ない)+動詞の不定形」、「aller+否定代名詞 rien(何も～ない)+動詞の不定形」も含めて総数を出した¹⁰。

2.1.1. 調査 I 結果

SS1、PP、POS から得られた単純未来形と近接未来形の総数と割合はそれぞれ以下のようである。表 3 のパーセンテージにおいて、小数点以下は示していない。

表 3：SS1、PP、POS における単純未来形と近接未来形の総数と割合

	単純未来形	近接未来形 ¹¹	計
SS1	53(58%)	39(42%)	92(100%)
PP	100(92%)	9(8%)	109(100%)
POS	1,740(51%)	1,703 (49%)	3,443(100%)

⁸ 他の媒体と条件を揃えるために、PP からは会話文の中に現れる単純未来形と近接未来形のみを抽出した。

⁹ 今回の調査ではエクス・マルセイユ大学で取られた 753,976 語だけを使用した。

¹⁰ 近接未来形とともに代名詞などの要素を用いる場合、それらは aller の活用形と動詞の不定形の間に置かれることになり、「aller+不定形」という条件で検索するとそれらが省かれてしまうため。

¹¹ POS の中で、近接未来なのか「～しに行く」の意味なのか判別できなかった 22 例は除いている。

2.1.2. 調査Ⅰ考察

SS1 においては単純未来形と近接未来形が約 6 : 4 の割合で、PP では単純未来形と近接未来形が約 9 : 1 の割合で出現した。このように、同じ文字媒体でありながら、単純未来形と近接未来形の出現割合は漫画と小説ではかなり異なるようである。また、POS を用いた調査では、単純未来形と近接未来形の割合が約 5 : 5 となった。この結果はより口語的であると考えられる漫画に近く、小説→漫画→話し言葉コーパスの順で口語度が高くなればなるほど単純未来形より近接未来形の方が用いられやすい傾向があるように見える。しかしながら、今回の調査では書き言葉コーパスについての調査はしておらず、漫画・小説ともに一冊ずつしか見ていないため、用例の量が十分であったとは言えない。さらに、話題の内容が両形式の使い分けに影響している可能性もあるため、今後は調査資料を増やし、用例の均質化を図った上での調査をする必要があると考えられる。

2.2. 調査Ⅱ

調査Ⅱでは、SS1 から抽出した単純未来形と近接未来形の用例のうち、単純未来形が用いられていた 53 例の動詞部分を空欄にして、単純未来形と近接未来形のどちらの形式がどの程度ふさわしいと感じるかを、フランス語母語話者のインフォーマント三人¹²に 1~4 の数字で選択してもらうという形のアンケート調査を実施した。選択肢はそれぞれ 1. 「可能であり自然」、2. 「可能だが特殊な状況下(親しい者同士の / 改まった場での会話、劇の台詞など)でのみ受容可」、3. 「可能だが不自然」、4. 「不可能」である。同じ質問で 1 を二度選択した場合は、それぞれの形式で意味の違いはあるか、あるとしたらどのように異なるのかを、また、2 を選択した場合はどのような状況下で受容可能になるのかを合わせて聞いた。

2.2.1. 調査Ⅱ考察

以下の節では、構文上の制限と時の表現という二つの観点から考察を行う。例を挙げる際、アンケートに使用した例文、グロス、訳、各形式に対するインフォーマントの回答の順で提示する。各設問の例文の訳は『銀の匙 Silver Spoon』第一巻(荒川弘原作 総ページ数 192・漫画本編 180)を適宜参考にしている。【】の中の数字は SS1 内でのページ数である。

2.2.1.1. 構文上の制限

構文上の制限は、インフォーマント全員が単純未来形を 1. 「可能であり自然」、近接未来形を 4. 「不可能」としたのに見られた。以下に例を挙げる。

¹² インフォーマントの情報はそれぞれ、A : 1992 年生まれ・女性・フランス(ノール県)出身、B : 1990 年生まれ・女性・スイス(ヴォー州)出身、C : 1986 年生まれ・男性・スイス(ジュネーヴ州)出身。

(1) Au moins, dans cette école, ce
PREP+ART.DEF.M.SG 最小 M.SG PREP ART.DEM.F.SG 学校 F.SG これ NOM
 [sera / va être] facile pour moi
COP.IND.3.SG.FUT 行く IND.3.SG.PRES COP.INF 簡単な ADJ.M.SG PREP EMP.1.SG
 d' être premier de la classe.
PREP COP.INF 一番の ADJ.M.SG PREP ART.DEF.F.SG 教室 F.SG

「少なくともこの学校では、クラスで一位になることは簡単だろうな」【24】

表 4 : (1)の結果

(1)	A	B	C
sera	1	1	1
va être	4	4	4

インフォーマント全員が単純未来を 1.「可能であり自然」、近接未来を 4.「不可能」としたものは 49 例中 6 例あったが、このうちの 5 例は「ce+être(～である)+補語」という構文をとるものであった。朝倉(2002: 102)では、ce は主として être の主語になるが、ほかに devoir être(～に違いない)や pouvoir être(～かもしれない)の主語にもなることができると述べられている。aller も devoir や pouvoir と同じく準助動詞であるが、devoir や pouvoir と違って ce を主語にした構文をとることはできず、「ce+aller の活用形+être」という形は使用不可になるようである。「ce+être(～である)+補語」という構文については、インフォーマント全員が近接未来形を用いることができないとしながらも、ce を cela や ça(cela の短縮形)などの代名詞に置き換えれば近接未来も使用可能であると答えた。

cela(ça)が être の近接未来形 va être と共起できる理由としては、cela(ça)と近接未来の性質の類似性が挙げられる。春木(2014)は ça を主語とする発話をさまざまな観点から分析し、その特性を明らかにしようと試みている論文であるが、その中で ça は「実際にその現象が起こっている現場で用いられることが多く、また発話主体、すなわち認知主体に関わる現象として述べられることが多い」(春木 2014: 64)と述べられている。すなわち、ça は現場指示的な機能を担っているということである。近接未来も、Franckel(1984)の言う「発話時との隣接」や Jeanjean(1988)の「現在に根ざした未来」という特徴を持っており、これもまた現場指示的である。このように、cela(ça)と近接未来の性質が似ているために相性が良く、そのため両者が共に用いられることが可能になるのではないかと考えられる。

2. 2. 1. 2. 時の表現

時の表現と未来形式の選択との関係について、Jeanjean(1988)では、事行に制限を与えるような時の副詞句¹³は近接未来形と共起しづらく、逆に単純未来形と使われることが多いと述べられている。また、Franckel(1984)では「単純未来は事行・状態を t_0 につなぎとめる

¹³ Jeanjean(1988)では complément de temps「時の補語」となっているが、本稿では「時の副詞句」とした。

傾向にあるすべての限定(操作)を排除する」、「逆に、近接未来は t_0 に対する断絶をもたらすすべての限定(操作)とは両立しえない」(Franckel 1984: 67)とされている。しかしながら、SS1 では発話時と断絶しているように思われる時の表現を含んでいても、単純未来形・近接未来形が共に使用可能であるとインフォーマントが答えたものが何例か見つかった。

(2) Je me demande quand on
NOM.1.SG PRON.REF.1.SG 問う IND.1.SG.PRES いつ ADV.INT PRON.INDEF
 [pourra / va pouvoir] monter à cheval...
～できる IND.3.SG.FUT 行く IND.3.SG.PRES ～できる INF 乗る INF PREP 馬 M.SG
 「自分はいつになったら馬に乗れるのだろう」【87】

表 5 : (2)の結果

(2)	A	B	C
pourra	1	1	1
va pouvoir	1	1	1

(2)には quand(いつ～)という時の表現が出てきているが、どのインフォーマントも近接未来形を問題なく使えると回答した。quand 以下は間接疑問文になっており、Jeanjean(1988)の言う「特別なコンテキスト内で現れる、近接未来形とも共起し得る例外的な時の表現」に相当すると考えられる。これはおそらく Jeanjean(1988)が指摘しているように、疑問文が対話者を想定した現場指示的な発話であることが多いという性格を持っており、同じく現場指示的な性質を持つ近接未来形と相性が良いために、共起が可能になるのではないかと考えられる。

(3) On doit tous passer
PRON.INDEF しなければならない IND.3.SG.PRES 全部 PRON.M.PL 通る INF
 le test d' aptitude physique dans
ART.DEF.M.SG テスト M.SG PREP 適正 F.SG 身体の F.SG PREP
quelques jours, vous [aurez / allez
ADJ.INDEF.PL 日 M.PL NOM.2.PL 持つ IND.2.PL.FUT 行く IND.2.PL.PRES
 avoir] tout le temps de
持つ INF すべての ADJ.M.SG ART.DEF.M.SG 時間 M.SG PREP
 choisir un sport adapté ensuite.
選ぶ INF ART.INDEF.M.SG スポーツ M.SG 適合した ADJ.M.SG それから ADV

「何日後かにみんな体力テストを受けなくてはならなくて、そのあとに自分に合ったスポーツを選ぶ時間があるだろう」【30】

表 6 : (3)の結果

(3)	A	B	C
aurez	1	1	1
allez avoir	1	3	1

dans quelques jours(何日後かに)という時の副詞句は、インフォーマント A、C が単純未来形・近接未来形の両形式と問題なく用いることができると回答した。これは、この時の副詞句が一見発話時と断絶した未来時の一点を指しているように見えるが、「(今から)何日後かに」という発話時と隣接した意味を持っているからであると思われる。Jeanjean (1988) は「ときおり前望的照準の意味の中でも使われる時の副詞句がある」(Jeanjean 1988 : 239) と述べているが、おそらく dans quelques jours もその中に含まれるのであろうと考えられる。

(4) Je	suis	votre	professeur	principal
NOM.1.SG	COP.IND.1.SG.PRES	ADJ.POSS.2.M.SG	先生 M.SG	主な ADJ.M.SG
et	j'	enseigne	la	littérature.
CONJ	NOM.1.SG	教える IND.1.SG.PRES	ART.DEF.F.SG	文学 F.SG
Je	[vous	suivrai /	vais	vous suivre]
NOM.1.SG	ACC.2.PL	ついていく IND.1.SG.FUT	行く IND.1.SG.PRES	ACC.2.PL
pendant	les	trois	prochaines	années.
PREP	ART.DEF.F.PL	3.NUM	次の ADJ.F.PL	年 F.PL

「私が君たちの担任で、受け持ちは国語。これからの三年間よろしくな」【19】

表 7 : (4)の結果

(4)	A	B	C
vous suivrai	1	1	1
vais vous suivre	1	3	1

Jeanjean (1988)では、(4)と同じような表現である pendant dix ans (十年間)は単純未来形としか使われないとされているが、(4)では A、C がともに 1。「可能かつ自然」を選んでいる。この例も(3)と同じように、prochaines(次の、来たる)という形容詞が発話時に trois années を結び付けているために近接未来形を用いることが可能になっていると考えられる。(3)、(4)と Jeanjean(1988)で挙げられていた近接未来と共に使える時の副詞句の特徴を考えると、Jeanjean の言う「ときおり前望的照準の意味の中でも使われる時の副詞句」とは「発話時に隣接し、時を指し示しながらも自らの内にある程度の長さを持つもの」であるということがわかる。

3. まとめと今後の課題

調査 I では漫画・小説・コーパスで単純未来形と近接未来形の出現割合がかなり異なる

という結果になった。しかし、その違いが文体差によるものなのか、あるいは別の要因が働いていたのかまでは判断できなかった。フランス語母語話者に対するアンケートを用いた調査Ⅱでは、両形式の使い分けには構文上の制限や時の表現の質の違いが関わってくるということを指摘することができた。今後、単純未来形と近接未来形の文体による出現数については、調査資料を均等に増やした上でより詳細な調査を行いたい。さらに、今回のアンケート調査では目的を絞り切れずにアンケートを実施してしまったために、調査が円滑に進まなかった。今後は調査目的を明確にしたうえでインフォーマント調査を行う必要がある。

略号一覧

1 : 1st person 1 人称 / 2 : 2nd person 2 人称 / 3 : 3rd person 3 人称 / ACC : accusative 対格 / ADJ : adjective 形容詞 / ADV : adverb 副詞 / ART : article 冠詞 / CONJ : conjunction 接続詞 / COP : copula : コピュラ / DEF : definite 定 / DEM : demonstrative 指示 / EMP : emphasis 強勢 / F : feminine 女性 / FUT : future 未来 / IND : indicative 直説法 / INDEF : indefinite 不定 / INF : infinitive 不定詞 / INT : interrogative 疑問 / M : masculine 男性 / NOM : nominative 主格 / NUM : numeral 数詞 / PL : plural 複数 / POSS : possessive 所有 / PREP : preposition 前置詞 / PRES : present 現在 / PRON : pronoun 代名詞 / REF : reflective 再帰 / SG : singular 単数 / + : fusion 融合

参考文献

<日本語で書かれた文献> 朝倉季雄 (2002) 『新フランス文法辞典』, 東京: 白水社 / 春木仁孝 (2014) 「ÇA を主語とする発話と認知モード L'énoncé < Ça + verbe > et le mode de cognition」『フランス語語学研究』48. 57-76, 東京: フランス図書 / 町田健 (1992) 「フランス語」 亀井孝・河野六郎・千野栄一編『言語学大辞典 (第3巻世界言語編)』, 東京: 三省堂 / 南館英孝 (1998) 「Aller + *inf.* と単純未来」東京外国語大学グループ《セメイオン》編『フランス語を考える フランス語学の諸問題Ⅱ』22-33, 東京: 三修社
<フランス語で書かれた文献> Franckel, J.-J. (1984) "Futur « simple » et futur « proche »". *Le français dans le monde* 182. 65-70, Paris : Hachette et Larousse. / Jeanjean, C. (1988) "Futur simple et le futur périphrastique en français parlé". *Hommage à la mémoire de Jean Stéfanini* 235-257, Aix-en-Provence : Université de Provence.

調査に使用した資料

荒川弘 (2011) 『銀の匙 Silver Spoon』第一巻, 東京: 小学館 / De Saint-Exupéry, Antoine (1943) *Le petit prince*. New York : Guallimard. / Arakawa, Hiromu (2013) *Silver Spoon -La cuillère d'argent-* 1 (traduction : fabien Vautrin & Maiko_O). Paris : Kurokawa. / CbLLE POS Research Engine (Spoken French) <http://cblle.tufts.ac.jp/tag/fr/index.php> (最終閲覧日 2015/1/10)